



君たちはどう生きるか

校長 横枕 耕史

この夏、宮崎駿監督の映画「君たちはどう生きるか」を鑑賞しました。映画の内容に関してはネタバレになりますので伏せますが、この映画のタイトルは児童文学者の吉野源三郎の著書と同名が付けられています。書籍「君たちはどう生きるか」は、主人公コペルくんが叔父さんからのメッセージを通して、人間としてあるべき姿の答えを自分で探しながら成長していく物語が描かれ、「自分の生き方を決定できるのは、自分だけである」という強いメッセージが伝わる作品です。主人公と同年代である中学生には、ぜひ読んでほしい一冊です。

さて、今年の夏は猛暑日が続き毎日のように熱中症警戒アラートが発令されていました。長期休業明けは、生活リズムを学校生活に順応できるように戻すことが大切です。夏休みの自由な時間から学校という型にはまった規則正しい生活への転換に息苦しさを感じていますが、生徒たちには2学期のスタートをうまく切ってほしいと願います。最近の統計データでは長期休業明けに学業不振、家族や友人との不和、不安やイライラなどメンタル不調など様々な理由で休み明けのスタートをうまく切れない子どもたちが多いといわれています。

人は誰でも悩みや心配なことを抱えています。子どもから大人へと身体と心が大きく成長していく思春期にある中学生にとっては悩んだり心配したりすることは正常な成長過程の一つです。自分が望むようにうまく生きることは簡単ではなく、誰にとっても難しいことです。どんな

に頑張っても結果が思い通りにいかないことが多く、あきらめたり妥協したりするのが人生ともいえます。「自分はどうするのか?」と悩みごとや心配ごとを深く考えれば考えるほど人間として大きく成長していけるのではないのでしょうか。「失敗は成功のもと」とポジティブに考え、前向きなアクションを起こしてほしいと思います。

本校では9月5日(火)から8日(金)の4日間の午後の授業をカットし相談週間として、生徒が希望した先生やスクールカウンセラーと二者面談を行います。自分のこと、学校のことや友達のこと、家族や家庭のこと、気になることや心配なこと、悩みごとなどについて、どんな小さなことでも相談してほしいと思います。相談するには勇気が必要ですが、自分一人で抱え込まず話すことでプラスに事が転じると思います。

また、本校では誰一人取り残されない学びの保証に向けた不登校生徒対応の一つとして、校内別室「エンカレッジルーム」を設置し、学校に登校できない生徒、登校はできても教室に入れない生徒、一時的に自分のクラスに入りづらい生徒が、落ち着いた空間の中で、授業のオンライン配信を視聴したり、課題に取り組んだり、一人ひとりのニーズに応じた多様な学びの場や生活できる環境を作っています。校内別室を利用する生徒の見守りのため、ステップサポーターに加え、9月より校内別室指導支援員を新たに任用します。

生徒一人ひとりが自分に合ったペースで「どう生きるか?」悩み考えてほしいものです。